



2万本の竹灯籠が城下町をライトアップする「竹楽」

■豊かな森林の恵を提供したい
12月に入ると「ミニ門松」づくりに入ります。会員の発想でマタケ、モウソウチクを使い、マツ、ナンテンなど縁起物で飾り、一对3000円で販売しています。
また、燻煙処理窯を活かし製作した「ミニ竹灯籠」が大分県の「ワンコインパッケージ」の求評



会員の発想で手作りされた正月用の「ミニ門松」



列状間伐講習会で指導にあたる会員

会で優秀賞を受賞し、「ふるさと宅配便」などで販売するなど竹を活用した取り組みを地道に実践しています。
一方、平成17年にはヒノキの優良品種「大林一号」500本を植栽し、シカやウサギの食害を防止しながら試験林として育成する取

り組みのほか、昨年は30年生のナングウヒノキ林で多くの参加者のもとで列状間伐講習会を開催するなど、山づくりにかかる活動も積極的に進んでいます。
林業の経済性の悪化により、森林資源の荒廃が懸念される現状で、山に生きる竹田直入林研グループ

連絡会は山を守る担い手として、地域との信頼関係による連携をより深め、生き生きと生活しながら地元の豊かな森林資源の恵みを提供しています。
(まとめ)大分県豊肥振興局生産流通部 野菜・椎茸班
林業普及指導員 山本公一郎



竹田直入林研グループ連絡会の皆さん（燻煙窯横にある竹の保管倉庫で、グループの拠点の「竹工房よこしら」の前で）

WE LOVE forest!
林業研究グループ

竹田直入林研グループ連絡会

大分県竹田市九重野

会員数 22名（男性14名、女性8名）
設立 昭和48年6月

■「竹楽」は、街と山の交流の場
11月中旬の3日間、秋の城下町に2万本を並べ、筒の中にロウソクを灯します。古い町並みを背景にほのかに浮かぶ「竹灯籠」の幻想的な光の美しさに毎年10万人も

荒れた里山のモウソウチク林の整備を目的に林研会員が伐倒し、玉切りを行い、街部のボランティアが搬出するといった共同作業で竹を伐り出し、電動丸のこで竹灯籠に加工します。半数の1万本は会員が平成14年に完成した燻煙窯で熟処理を行い、虫やカビに強く、2年間使用できるような仕上げます。

現在、竹田市の秋の一大イベントになった「竹楽」の第一歩でした。

この循環型の取り組みが「竹楽」というイベントで、伐竹、竹加工、当日の並べ作業、火付けなど全ての作業が市内の小中高生や一般市民等延べ5000人によって支えられています。

その後、使用した竹灯籠を炭に焼き、地域の河川や森林の環境改善に有効利用します。



林研メンバーと街部のボランティアの共同作業で（伐採は林研メンバー、搬出は街部のボランティア）、荒れたモウソウチク林から竹を伐り出す

また、食のコーナー「屋台村」では会員がイノシシ汁やシイタケ田楽、カッポ酒などを販売し、大勢のお客さんに喜んでいただいています。

また、食のコーナー「屋台村」では会員がイノシシ汁やシイタケ田楽、カッポ酒などを販売し、大勢のお客さんに喜んでいただいています。